

目的

昨年の発表に続き、今回は文明開化の言で表される人々の生活の欧風化の入り口である横浜港をもつ横浜市の学童の衣生活の変遷とその背景について調査した結果を報告する。

方法

横浜市内の、学制発布当初開校、あるいはそれに近い歴史をもつ小学校を対象に、市の中心部、東京に近い北部、山間部、かつて漁業を主産業とした海岸部の小学校の、百年史、卒業写真、クラス写真、古文書、横浜市史、教育史、聞きとりその他より、衣生活の変遷およびその周辺を調査する。

結果

- 横浜港開港によって、港に近い地域は市の中心部として外国人の居留も多く、商業も繁栄したので、児童の衣服の和服から洋服への移行は他地域に比べて10年は早い。
- 男女児とも衣服（和服）の柄は、縞または無地からカスリへと移行する。女兒の友禪は、かなりおそい。
- 女兒の髪型は結髪から次オにオカッパに変化するが、地域差がある。
- 横浜港に近い市の中心部以外の人々の生活は貧しかったようで、児童の就学率の向上に関係者は苦勞している。